

TAC通信

毎月、TAC (担い手支援担当) の取組み状況などをご報告いたします。

蓮田地区 (中部エリア) 担当の金子です。

今回はいもち病に対する空中散布の取組み報告を掲載させていただきます。

今年、JA南彩管内でも低温日照不足、8月中旬に降雨が続きました。

いもち病は、気温が16～25℃の範囲で、葉面が湿っている時間が10時間以上で発生しやすくなり、JA南彩管内でも、いもち病が多発しました。

蓮田地区でも葉いもち病が多発し、米の収量減少が懸念されると相談がありました。茎葉散布による防除を提案しましたが、個人による防除が難しかったため、株式会社スカイテックにラジコンヘリによる空中散布防除を委託しました。圃場の条件を勘案し、ドローンによる防除に変更しましたが、1反を約1分で散布をすることが出来て労働力の省力化に繋がりました。

JA南彩ではいもち病の防除を長期残効型の箱施用剤がおすすめです。今年のように出穂までいもち病が発生するような気象条件の場合には、長期残効型の箱施用剤をした時も茎葉散布剤による補完防除が必要になることがあります。個人による茎葉散布が難しい時は空中散布による防除をご検討いただければ幸いです。その時には各地区TACや営農経済センターまでご相談ください。

